か べせん てつどうしょうか 可部線 鉄道唱歌

- ょこがわえき 1 横川駅をあとにして のど でんえんはし 関かな田園走りゆく
- 2 横川発ちて放水路 ^{じがん} 慈眼におわす観音の
- ひだり
 たかくみたきやま

 3 左に高く三滝山
 がいすきないはる 常来鳴く春もよし
- 4 せせらぎ清き川沿いに ^{なが ゆた} みゎた 眺め豊かに見渡せば
- 5 長束までは一息に せんごくじだい な 戦国時代に名をはせし
- ながつか す

 6 長束過ぎて下祇園
- でに びしゃもん 西に毘沙門おわします

しゃりん おと なっ 車輪の音も懐かしく かべてつどう たの可部鉄道の楽しさよ

pt はやく みたきでら 渡れば早も三滝寺 はちじゅうはったい ふだどころ 八十八体 札所

たまなりの二重塔 ばたる かなっ 蛍 飛び交う夏もよし

のぼ 上りて行かん太田川 おおた てっきょう み 太田の鉄橋あれに見ゆ

にし そび たけだやま 西に聳ゆる武田山 けっそうえけい こじょう 傑僧恵瓊の古城なり

な たか ひろしまな その名も高き広島菜 うぶすなかみ まっ す さ の お おんめいきみ し 産土神と祀らるる 須佐之男の御名君知るや

> わかくさも みどりい 若草萌ゆる緑井の はっとらまっ たず み 初虎祭りに訪ね見ん

- 8 七軒茶屋で一休み ⁵ 植えられたると伝え聞く
- 9 上八木い出て清流の 大だ いちろなかしま 下れば一路中島の
- 10 流す 筏 の川下り むかし しの いしだたみ 往時を偲ぶ石 畳
- 11 高松・船山・伊勢が坪 が べ はっけい ひと 可部八景の一つなる
- 12 遥かに望む朝光に こうぼうだいしこんりゅう 弘法大師建立の
- 13 河戸薬師の河戸駅 なが たえ やながせ 眺め妙なる柳瀬も
- 14 今井田駅に近づけば いま のこ たてもの 今は残りし建物が
- 15 送り迎える駅いくつ まか とうろう え **廻り灯籠絵のごとく**

 ひろしまじょう
 ひょうろう

 広島城の兵糧に

 うめ はやし み い

 梅の林を見て行かん

こうえきいち さか 交易市と栄えたる ふなっ しゅくば なっ 船着き宿場の懐かしき

oc じょうせき にしひがし 残る城跡 西東 その名も床しい千代の松

は いらか な たか 映ゆる 甍 は名も高き た きぼとけ ふくおうじ 立ち木仏の福王寺

やま みず めぐ 山と水とに恵まれて きてき とも とお 汽笛と共に遠ざかる

あ き かめやま はつでんしょ 安芸亀山の発電所 ぉぉた みず かげうつ 太田の水に影映す

いむろ おがうち たのしり 飯室 小河内 田之尻と うっ か け えき 写り変わりて加計の駅 nh k j t j t j l j l j たらぶきゃ ね もみじち 藁葺屋根に紅葉散る

ふる まちなみ か け まち 古き町並加計の町 ょしみずえん 吉水園のたたずまい

- 17 筒賀の川のサツキマス 早瀬をのぼる銀鱗に なごりお 名残惜しみてわが汽車は 戸河内駅につきにけり
- 18 遠く煙れる深入山 てんかめいしょうさんだんきょう天下の名勝三段峡

ここで下車して山路ふみ たず ひと かずおお 訪ねる人も数多し

しゅうちゃくえき さんだんきょう 19 終着駅の三段峡 はう ひろば かぜ ふ 朴の広葉に風の吹く

いざ我が共よ蝉 涼し さんだんきょう たず み 三段峡を訪ね見ん

20 樽床ダムの真清水の みどり みず いわ う 碧の水の岩を撃つ

たぎ 滾りて落つる三ツ滝 しんりょくもなってる 新緑燃ゆる夏の頃

21 秋の夕日の照リ添いし 水面に映ゆる紅葉の

あか き だいだい こ うす赤・黄・橙 濃く薄き きんしゅう なに 錦繍 何にたとうべき

22 冬はさらなり真白にぞ 雪の積みたる白銀の ひじりこじょう ふ かぜ 聖湖上を吹く風に

しきおりおり なが 四季折々の眺めあり

平成24年7月 既存資料とJR西日本提供資料により整理(可部カラスの会)

※JR提供資料との相違点 当詞 2番三滝寺3番三滝山 JR資料2番三滝山3番三滝寺 22番JR資料 四季折々眺めあり (のが無い)

※ふりがなについて 往時(むかし),朝光(あさかげ),柳瀬(やながせ) 既存資料より